

Media Information

2022年4月2日

2022年 ラウンド1 レース1

開幕初戦は澤龍之介選手が独走でポール・トゥ・ウィンを飾る！

FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP（フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ=FRJ）2022の レース1 決勝が富士スピードウェイで行われ、3号車の澤龍之介選手（Sutekina Racing）がポール・トゥ・ウィンでシーズン初戦を制しました。



15周で争われた今シーズン最初の決勝レース。午前中の公式予選でポールポジションを獲得した澤選手は抜群のスタートダッシュをみせ、ホールショットをきめました。一方、2番グリッドの97号車、小川颯太選手（Bionic Jack Racing Scholarship FRJ）はうまくスタートができずに大きく後退。スタート直後の混乱でマスタークラスの11号車、HIROBON選手（Rn-sports F111/3）は2番手に浮上しましたが、1周目の13コーナーでミスをおかしてしまい、8号車の小山美姫選手（TGR-DC F111/3）と片山義章選手（Team LeMans F111/3）の先行を許してしまうことになりました。

後続がバトルをしている間に、澤選手は順調にペースを上げていき、1周目から2.9秒のリードを築くと、次々とファステストラップを更新。7周回を終えた時点で、小山選手との差を5.0秒にまで広げました。

一方、マスタークラスのトップ争いでは、2周目に14号車の田中優暉選手（アスクレイ☆イーグルスポーツ）がクラストップに躍り出ましたが、HIROBON選手も背後に食らいつき、接近戦の状態が続きました。2人のバトルは最後まで続くかと思われましたが、6周目のダンロップコーナーで田中選手がスピンを喫し、ポジションダウン。代わってHIROBON選手が再びトップに浮上しました。

またレース中盤には片山選手と小川選手の3番手争いが白熱。サイド・バイ・サイドから各コーナーで抜きつ抜かれつバトルを展開しましたが、10周目以降は片山選手のペースが良く、3番手をキープしながら、小川選手との差を広げていきました。

最終的に、スタートから一度もトップを譲らなかつた澤選手が、2番手以下を7.3秒と大きく引き離してトップチェッカー。見事FRJの2022シーズン開幕レースを制しました。2位には小山選手、3位には片山選手が続きました。

マスタークラスは、独走状態となったHIROBON選手がそのままポジションを守りきり、FRJ初参戦にして同クラス初優勝。途中スピンを喫した田中選手も残り3周でクラス2番手に浮上し猛追ぶりをみせましたが、最終的には4.7秒差でクラス2位となりました。クラス3位には34号車の三浦勝選手（F111/3）が続きました。



レース1優勝 澤龍之介選手コメント

「新品タイヤでレースに臨んだので序盤は不安なところはありませんでしたが、しっかりと逃げきって優勝できたので良かったです。ラップタイムも安定して走れたのかなと思いますが、終盤はタイヤの熱が上がり過ぎてしまい、タイムが少し落ちたところもありました。宣言どおり、ぶっちぎりで勝つことはできましたが、内容面では納得がいかないところもあります。それでも、幸先の良いスタートが切れたのは何よりで、この勢いで明日のレースも勝ちたいと思います」

レース1 マスタークラス優勝 HIROBON選手コメント

「スタートは得意なのでポジションを上げられましたけど、後ろからのプレッシャーがすごく、後方の様子が気になってミラーを見過ぎたことでミスをしてしまいました。その後、田中選手にも前に出られてしまい、自分のペースも良くなかったので『これはまずいかな』と思っていたんですけど、相手のミスもあり、クラストップに戻ることができました。デビューレースで優勝できて最高の気分です。でも、けっこうドキドキしましたね！」

以上

